



TITLE:

京大広報 No. 266

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 266. 京大広報 1984, 266: 461-466

ISSUE DATE:

1984-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209420>

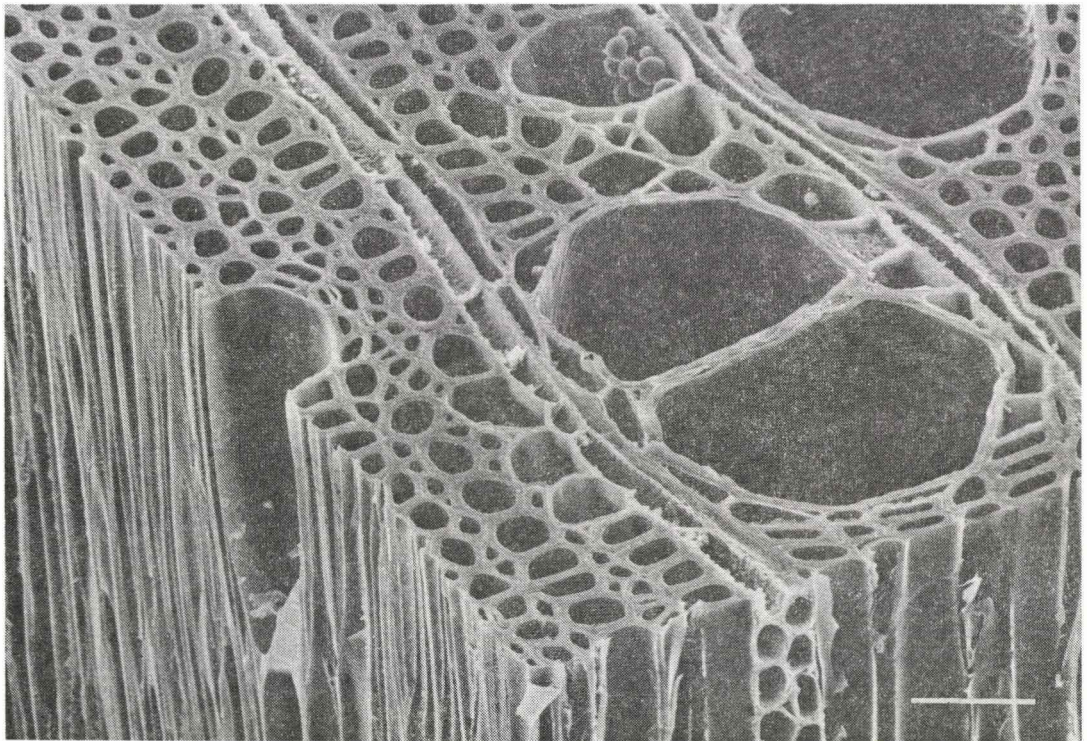
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

# 京大広報

No. 266

京都大学広報委員会



クスノキの走査型電子顕微鏡写真（スケール 50  $\mu$ m） —関連記事本文464ページ—

## 目 次

共通第1次学力試験の終了.....	462	〈資料〉	
部局長の交替等.....	462	国立大学の授業料の改定に	
昭和58年度の停年退職教官.....	462	関する国立大学協会の要望.....	465
〈紹介〉		〈随想〉	
木材研究所・木材生物研究部門		今は遠いあの時代	
材鑑調査室.....	464	一保健体育科開講のころ—	
		名誉教授 川畑愛義.....	466

## ＜大学の動き＞

## 共通第1次学力試験の終了

昭和59年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が、1月14日と15日の両日に実施された。本年度は、5試験場において行い、予定どおり終了した。試験場、試験時間等は、本広報 No. 264 に掲載したとおりである。

なお、本学関係の受験状況は、次のとおりであった。

試 験 場	志願者数	欠席者数	受験者数
京 都 大 学	8,122人	426人	7,696人
京都府立医科大学	360	25	335
計	8,482	451	8,031

## 部局長の交替等

## 文学部長

服部正明文学部教授（哲学・哲学史第五講座担当）が1月16日 文学部長に再任された。任期は昭和60年1月15日までである。

## 霊長類研究所長

久保田 競霊長類研究所長の任期満了に伴い、その後任として野澤 謙霊長類研究所教授（変異研究部門担当）が1月16日任命された。任期は昭和61年1月15日までである。

## 昭和58年度の停年退職教官

京都大学教員停年規程により、本年4月1日付けで本学を退職される教官は、次の方々（教授30名、講師2名）である。

部 局・職 名	氏 名	生年月日	出身地	講 座 等	研 究 分 野
文 学 部 教 授	萩 原 淳 平	大正 9. 4. 4	静岡県	東洋史学第二	モンゴル史の実証的研究とこれと関連する遊牧民と農耕民との関係交渉史の研究
〃	岸 俊 男	9. 9. 15	奈良県	国 史 学 第 一	日本古代史の研究
経 済 学 部 教 授	渡 瀬 浩	9. 9. 9	長崎県	経 営 政 策	経営の組織論的研究、労務管理論、労使関係論
理 学 部 教 授	富 田 和 久	9. 4. 21	東京都	物 性 基 礎 論	非可逆過程論、特に巨視的カオスの物理学的意義及び生物学への応用の研究
〃	笹 嶋 貞 雄	9. 7. 6	福井県	物 理 地 質 学	岩石磁気及び日本・東アジアの古地磁気学
〃	林 忠四郎	9. 7. 25	京都府	核エネルギー学	天体核物理学、恒星の進化と元素の起源、恒星の形成と太陽系起源の研究
〃	中 澤 圭 二	10. 3. 10	宮城県	地 層 学	テーチス地域のペルム・三畳系層序及び四万十帯形成過程の研究
〃	山 本 常 信	10. 4. 1	岡山県	量 子 化 学	理論化学、非平衡状態と相転移と水
医 学 部 教 授	日 笠 頼 則	10. 3. 24	岡山県	外 科 学 第 二	外科領域における脂肪代謝に関連した病態生理学的研究とその対策
薬 学 部 教 授	岡 田 壽太郎	9. 5. 10	京都府	薬 品 工 学	有機合成化学、反応工学、粉体工学、医療薬学
〃	大 崎 健 次	9. 6. 16	大阪府	無 機 薬 化 学	構造無機化学、情報化学、計算機化学



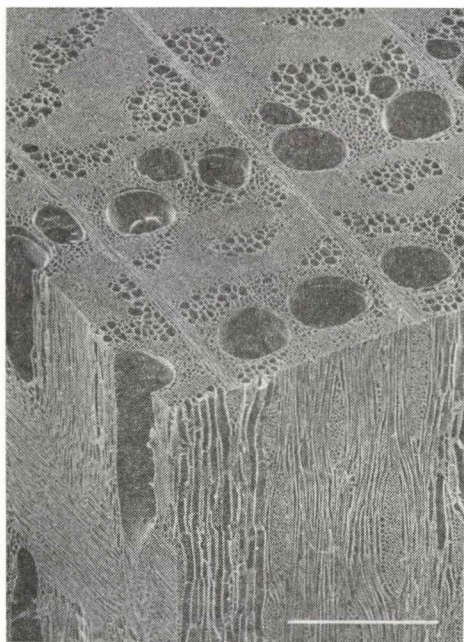
部 局・職 名	氏 名	生年月日	出身地	講 座 等	研 究 分 野
工 学 部 授	近 藤 文 治	大正 9. 6. 1	京都府	自動制御工学	フィードバック制御, 大規模システム制御, 制御用電子装置, 生体工学
〃	池 上 淳 一	9.10. 6	岡山県	高 周 波 工 学	マイクロ波, ミリ波, 光波工学; 主として回路, デバイスに関する研究
〃	小野木 重 治	9.10.21	京都府	高 分 子 物 性	レオロジーと流動光学を中心とする高分子物性並びに高分子材料に関する研究
〃	小 堀 鐸 二	9.11.15	東京都	建築基礎工学	耐震構造学, 動的基礎地盤工学, 地震応答解析論
〃	吉 岡 直 哉	9.12. 9	大阪府	機械系単位操作	流体・粉体混合系の特性及びその分離法に関連する機械的単位操作
〃	高 村 仁 一	10. 2.25	宮城県	結 晶 塑 性 学	金属物性特に格子欠陥, 結晶塑性, 材料強度物性
〃	明 石 一	10. 3.30	東京都	制 御 工 学	自動制御理論, システム制御, 機械力学
農 学 部 授	田 中 正 武	9. 6.10	京都府	栽培植物起原学	栽培植物の起原と種の分化及び有用遺伝資源の探索・開発に関する研究
〃	上久保 正	9.12. 8	広島県	農 産 製 造 学	生化学・生物工学; 固定化酵素の利用, 資源の循環利用, 植物の分子生物学的研究
〃	門 田 元	9.12.21	京都府	水産微生物学	微生物の生理・生態学, 特に海洋・湖沼及び食品の微生物に関する基礎研究
〃	栗 原 浩	10. 1. 8	栃木県	作 物 学	主要作物の潜在生産力の発現機作, 耕地利用の地域性
農 学 部 師	古 川 秀 顕	9. 5. 3	岡山県	土 壤 学	土壌化学, 特に鉄の加水分解挙動が作土層の特性を規制している諸事象の研究
〃	竹 土 伊 助	9. 8.19	熊本県	農 学 原 論	農(林)地所有の法制史, 農協経営分析手法の実証研究
教 養 部 授	万 井 正 人	9. 4.30	大阪府	保 健 体 育	医学, 体育学, 保健学の学際的領域のなかでの運動生理学的研究
〃	木 下 圭 三	9. 7. 7	鳥取県	化 学	有機反応化学, 一般化学及び化学史の研究
〃	松 本 誠	9. 8. 1	京都府	数 学	微分幾何学, 特にフィンスラー計量をもつ空間の幾何学の研究
〃	竹 山 幹 夫	10. 2.13	岐阜県	物 理 学	プラズマ中の電離波動の研究
〃	井 上 健	10. 2.19	神奈川県	物 理 学	理論物理学
化学研究所 授	岡 野 正 彌	9.11. 7	滋賀県	石 油 化 学	ヘテロまたは金属元素の関与する有機反応の合成化学的研究
人文科学研究所 授	上 山 春 平	10. 1.16	和歌山県	宗 教 史	哲学的国家論の観点からする国家と宗教の関係についての研究
結核胸部疾患 研究所 授	前 川 暢 夫	10. 1.30	兵庫県	内 科 学 第 一	呼吸器内科学, 特に呼吸器感染症の化学療法に関する研究

## 〈紹介〉

## 木材研究所・木材生物研究部門

## 材 鑑 調 査 室

木材の輸入額はここ数年来、石油について第2位である。それほどわが国は外材に依存する比率が大きく、木材消費量のうち輸入材の占める量は1960年には50%であったものが、1975年には60%に、1980年には70%に達している。しかも数年前まではラワンで代表されていた南洋材にも多くの樹種が混在するようになり、輸入先も東南アジアのみならず、アフリカや南アメリカからも多くの樹種不明材が輸入され、利用上混乱を来している現状である。しかもこれら外材の70%が西日本地区で陸揚げされており、木材生物研究部門にも樹種識別や材質調査の依頼が相次ぐ状態である。さらに最近の考古学ブームで、平城京、平安京はじめ、古い都があった関西では、遺跡発掘による出土木質遺物もきわめて多く、それらの樹種、材質、年代などを調べることも重要な課題になってきた。本研究部門では木材研究所創設以来、研究の一側面として、材鑑の収集やプレパラートの作成など、木材研究の基礎である樹種識別に関するデータを蓄積してきた。1978年に『国際木材標本室総覧』に機関略号 KYOw として正式登録され



ケヤキの走査型電子顕微鏡写真（スケール 500 μm）

たことを契機に、関西地区にも材鑑調査室の新設を要求していたところ、1980年度から運営費（年間約200万円）が、さらに1982年度には同建屋220 m<sup>2</sup>が文部省から認められた。その間、国内における材鑑や<sup>さくよう</sup>腊葉の収集はもちろんのこと、上記の『総覧』に登載されている海外の諸機関との材鑑交換をも積極的に行い、さらに未整理で保管されていた材を整理することによって飛躍的にその数を増加しつつある。

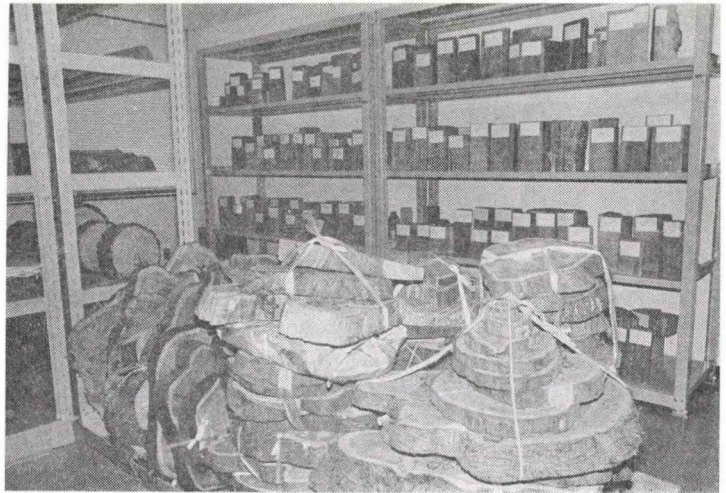
新しく材鑑を作成するには、樹木を伐採し、図書カード大の木材標本を作ると同時に、その腊葉標本も証拠物件として採集しておく。樹種名（学名、科名、和名、通俗名）、採集者、採集場所、採集年月日、その他参考になる事項を元帳に記入し、索引のためのカードを2枚作成して、科名あるいは属名からも必要な材鑑を抽出できるようにしておく。もちろん各標本には一連の KYOw No. が付されている。現時点で KYOw 6,500 まで元帳に記載され、索引カードに整理ができたのは KYOw 4,000 までで、そこには117科、545属、1,440種あり、国産材のほかに世界各地から交換あるいは寄贈により入手した多くの外材樹種も含まれている。なお近い将来、材鑑の管理にコンピュータの導入を計画している。

収集した材鑑を整理収納するには、植物分類順により配列する方法と、収集順にする方法とがある。前者では、同一樹種の標本が同じ場所に配置されているため、樹種内での変異性や特徴、さらに近隣の種や属の特性を把握するのに便利である。しかし、新しく収集する標本のためにより余分のスペースが必要になる。農林水産省林業試験場（約11,000点）ではこの方法を採用している。後者の方法では、同じ樹種の標本が分散して保管される不便さはある。しかし、収納面積が少なくすむし、収集した地理的位置の特性をみるのには好都合である。東京大学農学部森林植物学研究室（約16,000点）はこの方法で整理しており、われわれの材鑑調査室も収納面積が狭いため採集順に整理する方法を採用している。

材鑑調査室では標本の収集、樹種識別のほかにも、国内、国外の木材研究者はもちろん、植物分類学、植物系統学、考古学の研究者などからの資料の要求、調査、依頼にも対応しなければなら



いし、木材に関係のある犯罪捜査や法律問題の解決にも協力することがある。そのためには蓄積の拡大になお一層の努力が必要である。有用樹種といわれるものの材鑑はすでになんかの量が収集されているが、遺跡からの出土木材にはそれ以外の樹種も包含されているし、外材に関しても、今まで未利用であった新しい樹種が輸入されてくる。さらに同一樹種でも立地により、また1本の樹木でも部位により性質の異なるのが天然の生物材料である木材の特徴である。これらの材鑑の収集、さらには顕微鏡観察用のプレパラートの作成から樹種識別のデータまで蓄積していく仕事は、まさにエンドレスである。現在、この難解な樹種識別をコンピュータ化するためのソフトウェアを開発中である。今後も継続して多くの材鑑を収集し、木材の物



大 型 材 鑑 室

理的、化学的性質の基礎となる組織構造を解明することにより、木材の適材適所への利用方法の確立、さらに木材に関連する他の分野にも貢献することができるものと確信する。

(木材研究所)

## ＜資 料＞

### 国立大学の授業料の改定に 関する国立大学協会の要望

このたび国立大学協会会長から、国立大学の授業料の改定に関し、以下のとおり関係方面に要望した旨報告があった。

昭和59年 1月24日  
国立大学協会会長  
平 野 龍 一

#### 要望書の提出について

昭和59年度の予算編成に当たり、国立大学の授業料の増額改定を図る意図がある由仄聞いたしましたので、これの学生生活に及ぼす影響に鑑み、急遽その対応について両副会長及び第6常置委員会委員長と協議し、取急ぎ関係方面に国立大学側の意向を伝え善処方を求めることといたしました。

よつて、予て第6常置委員会で検討中の素案を基に要望書を至急取りまとめ、去る1月18日、事務局長がこれを携えて大蔵省及び文部省を訪ね、両省大臣以下各関係官にこれを提出いたしました。

以上、国立大学授業料の問題に関し緊急に処置いたしましたので、同要望書の写を添えここにご報告いたします。

昭和59年 1月17日  
国立大学協会会長  
平 野 龍 一

#### 国立大学の授業料の改定について（要望）

政府においては、財政再建と行政改革に真剣に取り組まれていることに敬意を表するものでありますが、明年度の予算編成に当たり国立大学の授業料を大幅に増額改定する意図があると伝えられていることについては国立大学協会としては強い危惧の念を表明せざるを得ません。

国立大学の授業料については、既に昭和54年12月18日付けの要望書等において、繰り返し要望しておりますように、教育の機会均等の原則を実現するためにできるだけ低廉であることが望ましく、また国と社会を最大の受益者とする国立大学の教育にとつて単純な受益者負担の原則の適用やコスト主義に基づく専門分野間格差の導入などは認められないことであります。しかも近年の授業料と入学科との隔年交互の増額改定により国立大学の授業料は私立大学の授業料の半額程度にまで達しており、単なる財政収入の増の観点からその引き上げが図られてはならないことも既に指摘し要望してきたところであります。

政府におかれては、われわれの意のあるところを賢察せられ、国立大学の授業料の取扱いについては十分慎重を期せられて、教育の機会均等の原則の実現に努力されるようここに重ねて強く要望いたします。

